

令和2年度第1回市川市社会福祉審議会 会議録

1. 開催日時

令和2年7月6日（月）10時30分～11時30分

2. 開催場所

全日警ホール2階 第3会議室

3. 出席者

【委員】

会長 岸田委員

副会長 藤野委員

委員 岩松委員、小野委員、木下委員、庄司委員、高田委員、立川委員、谷内委員、中野委員、長坂委員、村山委員、福田委員、古瀬委員、山極委員、山崎委員、和田委員

(欠席者1名：福澤委員)

【市川市】

小泉福祉部長、菊池福祉部次長、高橋福祉政策課長、菊池介護福祉課長、岡崎地域支えあい課長、福地障がい者支援課長、高橋発達支援課長ほか

4. 傍聴者 1名

5. 議事

(1) 第8期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた市民意向調査について（報告）

(2) 次期計画策定方針について

① 第8期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

② 第4次いちかわハートフルプラン

(3) 第8期介護保険事業計画の初年度認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）の整備について

(4) その他

6. 配布資料

・議題(1)説明概要 第8期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた市民意向調査の結果について（報告）

- ・資料 1-1 第 8 期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画に係るアンケート結果報告書（抜粋）
- ・資料 1-2 e-モニターアンケート結果報告書
- ・資料 1-3 e-モニターアンケート結果速報
- ・議題(2)-①説明概要 第 8 期 市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定方針について
- ・資料 2-① 第 8 期 市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定方針について
- ・資料 2-② 第 4 次いちかわハートフルプラン骨子案 1～5
- ・資料 2-③ 第 4 次いちかわハートフルプラン骨子案 1～5
- ・議題(3)説明概要 第 8 期介護保険事業計画の初年度認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）の整備について
- ・資料 3 第 8 期介護保険事業計画の初年度認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）の整備について
- ・当日配布資料 1-1 第 8 期市川市社会福祉審議会委員名簿
- ・当日配布資料 1-2 第 8 期市川市社会福祉審議会専門分科会委員名簿（案）
- ・当日配布資料 2 「令和 2 年度の開催予定表」

議事録

（午前 10 時 30 分開会）

発 言 者	発 言 内 容
岸田会長	<p>（会議に先立ち、谷内委員・中野委員にご挨拶をいただいた）</p> <p>（1）第 8 期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた市民意向調査について（報告）</p> <p>それでは、議題（1）「第 8 期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた市民意向調査について（報告）」です。福祉政策課より説明をお願いします。</p>
福祉政策課長	<p>（議題（1）説明概要から資料 1-3 に基づいて説明）</p>
岸田会長	<p>ただいまご説明がありました。皆様から事前にいただいたご質問は「当日配布資料 3」として配布されておりますけれども、議題（1）については多くの質問をいただいておりますので、すべての項目を議題にする時間がございませんので、複数の方が関心を持たれたテーマや類似・関連するいくつかのテーマで皆様との意見交換をさせていただこうかと考えますがいかがですか。</p>

(異議なし)

岸田会長

よろしければ進行させていただきたいと思います。

まず、質問番号 10 番・12 番について、高田委員からのご質問にあるように、「新型コロナウイルス感染症流行をきっかけとして浮かび上がった課題や『新しい生活様式』への対応について」皆様の感じるところ、意見、施策として課題として検討しなければならないところについてご意見を頂戴したいと思います。既に記述されている高田委員も含め、ご意見やご質問がありましたら、お願いします。

熊本の球磨川の氾濫を受けまして、災害と感染症が同時に来るといってとんでもない事態が想定されています。この質問の中にも、そういうことをしっかり考えなさいというようなものが出ておりましたけれども、皆さん自身、市民の立場、あるいはそれぞれの皆さんのお立場から見ていかがでしょうか。

例えば新しい生活様式の中では福祉サービスというのは大変密着したサービスです。近いところで支援をする、医療もそうなのですが、そういうことをどういう形で行っていくことが適切なのか、あるいはどのようにすれば、それが実現できるのか、何かご意見がありましたらお願いしたいと思います。

木下委員

障がい者団体ですけれども、新型コロナウイルス感染症が拡大してきている中で、一番困るのは何かというと、避難所について我々は少し危惧しております。勤めの関係で、土曜日に君津市で1年弱前に災害があったということがございまして、今後の災害対策をどう考えるかということの全体会をやりました。

市長も出席していただいて意見交換をしました。やはりこういう雨が続きますと、この市川にも災害の際に川の増水等による災害が危惧されるわけですが、第一次避難所は小学校なのでしょうか。従来の避難所の在り方ですと、人がそんなにもたくさんそちらへ避難することができなくなる。そうすると分散しなければいけない。そうなってきた場合に障がい者は第一次避難所ができてから、しばらくたってから福祉避難所ができるというのが今までの想定だったと思うのですが、こんな時ですから是非最初から、障がい者や高齢者にとっての福祉避難所というのを別枠で作るとすることも考えていただけたらありがたいと思いますので、よろしくをお願いします。

岸田会長

ありがとうございます。従来の避難所の考え方にプラスアルファ、新しい生活を取り入れた対応も是非検討させていただきたいというご意見

岸田会長	<p>でした。これはとても重要なポイントで、今後それをどうしていくかが課題かと思いますが、人的にも場所的にも限られている中で、最大限の努力をせざるを得ないのですけれど、実際にコロナの緊急事態宣言が出てから、障がい・高齢問わず通所系のサービスがどれくらいお休みになったのかとか、そういったところを、もし、市の方で把握されていたら情報提供をいただきたいと思います。</p> <p>例えば休業すると事業所側はかなり経営が厳しくなってくるという側面と、家でサービスを受けられないで困っている子ども達、あるいはお年寄りがいると、そういうこともあるかと思いますが、その辺り実際に高齢介護をやっておられる方も含めて状況が分かりましたら簡単に教えていただきたいと思いますが、いかがでしょう。</p>
福祉政策課長	<p>まず1つ目、避難所につきましては皆さんやはりご心配だと思います。市川市も今、避難所をどう立ち上げるかというのを根本から見直しております。一人ひとりの避難スペースを確保することがまず大前提になりますので、一つひとつの避難所に入れる方が今までより大分減るようになると試算をしています。従いまして、入れる場所が少なくなってしまうから、今度は開ける場所を増やすという考え方で今動いています。基本的にはその時の現状によるとは思いますが、現状では小中学校を一斉に開けようということで動いているところです。</p> <p>それから新聞・報道等でご覧になった方もいるかもしれませんが、簡易テントのような家族毎に仕切れるテントを大量に購入したという話も聞いておりますので、避難をされた方はそこで、感染症等とうまくつき合いながら避難生活を送らなければいけないということは認識をしているところです。</p> <p>それから高齢者、障がいのある方を特別にというのは当然私たちもそういう意識を持っております。市内の小中学校を全て開けた時、ご高齢の方や障がいの方をどこにご案内すればよいかというのはまた課題になって来ると思います。近いところが当然良いのですが、そうすると分散をしなければいけなくなる。そこを今研究させていただいているところです。</p> <p>2つ目の休業の話ですが、私たちが把握しているところでは通所系の事業者が、6事業所ほど自主的に休業されたというご報告はいただいています。</p> <p>やはり介護サービスは止められないサービスですので、現場で創意工夫をして例えば、「週3回利用していたところを週1回になりませんか」というようなところからスタートして、リスクを下げながらサービスを維持するというところで、現場の皆さんはご苦勞をされたと思います。</p>

福祉政策課長	どうしても感染を予防するということに主眼が入りますので、現場ごとに創意工夫をしてくださった結果だと考えております。
障がい者支援課長	障がい福祉サービスについては利用を必要とされている方々ですので、ほとんどの事業所の方で曜日を減らしたり、利用時間を少なくしたり工夫していただいて、ほとんどの事業者が継続して開いていただいたという状況になっております。障がい福祉サービスの方もそのような状況です。
岸田会長	他にございませんか。
長坂委員	<p>我々は基幹相談支援センターという形で、障がいをお持ちの方の総合相談の窓口になっているのですが、先ほど会長からお話しいただいたように、この3月中旬から5月いっぱいまではかなりいろいろな形で制限を受けていまして、直接お会いするケースがかなり減ってしまいました。</p> <p>その中で、市川市内の相談支援専門員の事務所は人が少ないため限られた方々がやっています、かなり閉ざされているので、会ってお話することがなかなかできません。皆さまは閉塞感や、相談員達も行き場の無さ、相談をする場所の無さといったものはかなり感じています。我々の方としてはそこを何とかしたいということで、ウェブ会議を各所、例えばサイエンスネットという相談員さんたちの集まる場所において、そこでウェブ会議を開くとか、高齢者サポートセンターさんと共同で、ウェブ会議で「現状はどうですか」と話し合いの場を設け、工夫してやってきたのですが、今後こういった大災害の際にも一つの手段として、有用性を感じています。</p> <p>今後こういうように集まるような工夫も大切だと思うのですが、そういった時に会わないから施策を進められないということではなくて、どうにかして進めていくにあたっての、一つの手段としてそういったものを利用するというのにはありなのかという感じがしましたので、今後一つの手法としていかなるものかと思ひましてお話させていただきました。</p>
岸田会長	質問番号 10 番・12 番について、新しい生活様式というものに対してご意見をいただきました。福祉政策課からはいかがでしょうか。
福祉政策課長	まさに今教えていただいた ICT の活用というのはこういうサービスを提供する以外でも必要となってくる時代なのだろうというのは同じ思

岸田会長	<p>いです。これから皆様といろいろ知恵を出し合って、そういったところを目指して行けると良いかと実感しています。</p> <p>では他にも意見をいただいていますので、質問番号 16 番から 22 番あたりについてご意見をいただきたいと思います。社会福祉法が改正されて共生社会というのが、かなり前面に出てきました。それからダブルケアという問題も出て来ていると思うのですが、その辺りについて追加のご質問やご意見がありましたらどうぞお願いいたします。</p>
庄司委員	<p>今の項目と直接関係がないかもしれないのですが、アンケート全体の中で、先ほどのコロナの状況や被害の状況と関わった感想を述べさせてもらいたいと思います。避難に関する現在の避難優先順位は、地域制で避難地域ということの分類で優先順位が掲げられていますけれども、それに加えて地域の中で、避難を一番にしなければいけないような対象である目安のようなものもあれば、自分も対象になっているのではないかなという意識と繋がっているのではないかなという気もしました。</p> <p>それからアンケートの内容から在宅で最後まで暮らしたいと考えている方というのが、私が予想していたより非常に少なく、現在の要介護認定の中では3割の方ということで、それは逆に言うと在宅で安心して死ねない状況だということも表していると思います。それに医療の現場とか入所というところで亡くなりたいというところで、これから方向性として在宅介護を進めていく国の方針とは全く違う意識になっています。私は個人的には自宅で死にたいと思うのですが、なかなか自宅で死なせてもらえない状況とか、安心して死ねない状況があって、それは家族や親族の中でのダブルワーク問題とも関わって、若い人のダブルケアの問題と関連するのかなというのが感想です。</p>
岸田会長	<p>貴重な意見、ありがとうございます。それに関わることで、その他でも結構ですので、他にございませんか。今、庄司先生からご意見が出ましたけれど、所管課から何かありましたらお願いいたします。</p>
福祉政策課長	<p>先生からご意見をいただいてまさに本当にそうなのだろうと。本音がどこにあるのか、という話になるのかもしれませんが、家族に迷惑をかけたくないという思いが出て来ているのではと推測しているところです。しかしながら安心して在宅でという環境が、まだ足りないというところにも目を向けて、次期計画を見ていきたいと思っています。ありがとうございます。</p>

岸田会長	<p>日本の家族は急速に都市化して小さくなって、機能をサービスで買いつながりながら暮らしていくと。家の中ですべてやっていくというものから、行政のサービスであったり民間のサービスで代替して、そういう状況の中で実態として考えたときに家族に迷惑をかけたくないとか、その負担で家族がやりたいことができなくなることにに対する危惧であったり、そういったものがこの市民アンケートの中に出ているのだということに改めて痛感しました。一方で、地域共生でやっていこうというのも、いろいろな意味で大切な方向だとは思いますが、ギャップが興味深いところであるというふうに考えています。ありがとうございます。</p>
村山委員	<p>今のご指摘ですが、本当にその通りです。介護保険、介護福祉の方は着々と充実に向けて取り組まれていくと思うのですが、連携が不足しているのは医療との連携だと思います。在宅診療、もちろん通院や入院で診ていただくというところは進んでいるかもしれませんが、在宅医療というのが市川においてはまだまだ弱いのではないかと考えています。介護保険がらみの訪問看護や医療はやっていますが、介護保険がらみでない病気でも自宅で診ていただいて診療していただくというところの取り組みがもう少ししっかりしていただきたいので、それを計画の中に入れて込みながら、医療と相談をしてどう進めていくのかということをやりたいと思っています。よろしくお願いします。</p>
地域支えあい課長	<p>本当に貴重なご意見ありがとうございますとお受けしたいと思います。市川市でも医療関係と介護関係、それぞれの専門職の多職種連携というものを重く見ておまして、様々な会議、研修会などを開いております。市民向けの講演会なども開き、140 人の方に在宅医療の講演会にご出席いただきまして、看取りも含めた専門の先生からいろいろな事例などを交えたお話を伺っております。</p> <p>ここで、医療と介護のきちんとした連携の意識の高さを、まず市民の方にもお見せしていく必要もあるということで、例えば病院の MSW の方々、それから高齢者サポートセンターの方々も含めたケアマネージャーさんなどからの忌憚のない意見交換会も開きました。それぞれの意思の疎通が意外に難しかったことも昨年度に分かりました。顔のつながりもできたということで、訪問看護ステーションや医師会の先生方のご協力で、介護の関係の職員の方々との連携が進みつつあると私は考えております。ただ、これを市民の方々が安心してそれを利用していただけるといった状況を作っていく必要があると思いますので、これからも周知について取り組んで参りたいと考えています。</p>

岸田会長	<p>医療と介護、これは共生社会の中でかなり具体的に法律にも地域包括ケアのシステムの中でも書き込みされていますので、今後は進んでいくと思いますけれども、今、岡崎課長がおっしゃったように本当に現場の顔と顔がつながるだけでも随分力になっている。それで会話が進めばコミュニケーションも進むということですので、密な会話がなかなかしにくい環境ではありますが、医療機関、介護機関の場合はいろいろと ICT がありますので、遠隔会議をするシステムのサポートなどを小さな病院・介護施設などにもうまく支援していただければ良いと感じました。</p> <p>他にございますか。</p>
山崎委員	<p>ボランティアの立場で少しお話をさせていただきます。私共は市川総合病院でボランティアをさせていただいています。1年に1回は院長先生や事務の方、看護部長さん諸々と会合を開いております。ですからやはり、密にそういう会合が開ければより良い市川の医療になると思いますので、是非なさっていただければと思っています。</p> <p style="text-align: center;">(2) 次期計画策定方針について</p> <p style="text-align: center;">①第8期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画</p> <p style="text-align: center;">②第4次いちかわハートフルプラン</p>
岸田会長	<p>続きまして、議題(2)「次期計画策定方針について」、所管の両課から説明をお願いします。</p>
福祉政策課長	<p>(議題(2)-①説明概要から資料2-①に基づいて説明)</p>
障がい者支援課長	<p>(議題(2)-②説明概要から資料2-②に基づいて説明)</p>
岸田会長	<p>ただいま、両課より説明がありました。事前質問では3点質問をいただいておりますが、この点につきまして、所管課から補足説明はございますか。</p>
福祉政策課長・障がい者支援課長	<p>ございません。</p>

岸田会長	<p>それでは、追加のご意見やご質問がありましたら、お願いします。 村山委員。</p>
村山委員	<p>事前の質問として質問番号 27 番・28 番のところに書かせていただいたものに補足のお話をさせていただきます。今回の新型コロナウイルスの状況で感染が拡大する、クラスターが次々発生するという状況を、大きな自然災害の一つとして行政も捉えてくださっていると思います。</p> <p>一つ事例として、千葉県の北総育成園という 70 名ほどの入所施設で職員も含めて 8 割位の方に感染が広がり、2 か月くらいでようやく千葉県が集団感染の終息宣言をしたことがありました。</p> <p>この事例では、施設の中を病院化して医療従事者や看護師、感染症の専門家が入って、支援者への防護服の着方や対応の仕方を伝えたり、安全なところと感染リスクが多いところとの境界を分けたりと、色々なことが船橋市のホームページや県のホームページに載っていますし、色々な報道もあったと思います。</p> <p>今回は感染が拡大するというので自由に人がヘルプに入れないという状況が一番大変なところだと思うのですが、こういうことがこれからも起こり得ることを考えて、千葉県の例を見ながら、市川市においても行政と医療と福祉関係が連携した仕組み作りを考えていただけたらと思います、ここに書かせていただきました。</p> <p>DMAT（ディーマット）という災害派遣医療チームもありまして、他県ではやっているところもありますが、なかなか不十分です。福祉人材が不足している現状で、そういう人材を集めておくこともかなり難しいことではあると思いますが、是非こういうことも検討していただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
岸田会長	<p>切実な希望をありがとうございました。この質問に書いてあるとおりでありますが、既に先行事例があるということですので、それに学んだプラン作りということが、今回とても重要な課題になると改めて思いました。他はいかがですか。谷内委員。</p>
谷内委員	<p>先ほど、高齢者福祉計画の説明の中でもありましたけれど、共生社会ということで、重要性をもって進めてきたのですが、今回のコロナ禍において、なかなかそれが難しい状況になってしまったという現実があります。計画の中でも色々なメニューを揃えて、その状況ごとに対応できる事業をメニューとして揃えていかなければいけないと思っていますので、是非そういう進め方をしていただければと思います。</p>

<p>岸田会長</p>	<p>ありがとうございました。先ほどの村山委員の意見もそうだと思いますけれど、一度決めたものはなかなか変わらないという仕組みでずっと進めてきたものを、何かあったときにすぐにその場で柔軟に変えなければいけないという課題が我々に降ってきたというご指摘かと思います。それを踏まえて、是非この計画を立てていきたいと思います。他はよろしいでしょうか。</p> <p>では次期計画についての内容はこの内容で進めさせていただきたいと思います。途中、それぞれ分科会があります。そこでは皆さんどうぞ忌憚のないご意見等いただいて進めていただきたいと思います。では、これで次に進めるということによろしいでしょうか。和田委員。</p>
<p>和田委員</p>	<p>私個人として、この事業計画に関わるアンケート調査結果を見ていて、非常に不満があります。例えば第7期の介護保険事業計画の1ページ目にこういう問題があってこれらに取り組んでいくという中に、介護離職の問題と書いてあります。それから、地域包括ケアシステムのさらなる深化を目指す。最後にもまた「目指す」という言葉が2回出てきており、しかもこれは3年間の計画の重要な骨子であると言っておきながら、この事業計画の報告を見ると高齢者サポートセンターとか地域包括ケアとか一言も載っていないのです。私はそう読み取りました。</p> <p>例えばこの資料1-1の10ページ目、認知症カフェについて、認知度が高くないのでこれを高くすべきだということできらっと逃げているのですけれども、認知症カフェというのは地域包括ケアセンターがほとんどやっているのですよね。これをやはりどんどん進めて来た非常に良いシステムなのでインフォーマルな施設サービスは良いものだからこそ補助をしていきたいと思いますというのもホームページを見たら出てくるのです。そこまでやっておきながら、計画の中の答えとして「認知度を上げていきましょう」、これでは何のために地域包括ケアセンターがあってこういうことをやって進めているのを市が全くそれを認めていない、分かっていないのではないかという強い危惧を感じます。</p> <p>それから11ページ目に介護離職の話があり、これはとても大変なことだと思っているのです。4%の人が介護離職をしている。それに対して市の福祉として、これは大変だとかの何のコメントもないのですよね。</p> <p>例えば前回の計画に比べて増えている・減っているとか、市の福祉としてどう捉えているかがなくて、しかも最後に「引き続きケアマネージャー等に気軽に相談できる体制づくり」と11ページの最後にありますけれど、ケアマネージャーというのは、介護保険法でも大事な役割をしていて、その大きな役割の中に、介護者、例えば認知症のをお世話して</p>

<p>和田委員</p>	<p>いる家族の方などの就業支援、継続して仕事をしていけることをサポートしていくのもケアマネージャーの大きな役目で、それをもとにしてケアプランを立てていっている。ケアマネージャーにしてみれば、それでいて介護離職がこれだけいて計画にも何も含まれないという、自分たちのやってきたことは何だろうと思うようになってしまうのではないかと思います。本来ですとこれは地域サポートセンター、地域包括ケアの窓口になって介護離職の人が出そうだとか、悩んでいる人はそのところでしっかり受け止める、そういうシステムになっているはずですよ。それを飛ばして、さらっと「ケアマネージャーに気楽に相談できる」、これでは真剣に3年間の計画を立てるスタンスになっているのでしょうか。きちんとしたポリシーを持って、こうした分析したものを使って、福祉部全体が集まって知恵を絞ってしっかりした計画を作ってほしいです。そのためにはケアマネージャーとか地域包括ケアセンターとかそういうところの意見をどんどん取り入れてそういうスタンスでやってもらいたいと思いました。</p>
<p>岸田会長</p>	<p>和田委員ありがとうございました。個別にそれぞれ質問に対して回答があって、その中で色々やり取りはされているのですが、この限られた時間でそこまで届かなかったところもあります。そこは少し私が不十分だったと思いますが、確かにそういった介護離職ですとか、地域包括でやって行く仕事の内容ですとか、今出ている介護離職、ダブルケア、子育てや障がいのある家族がいて、そして要支援の高齢者もいるといった方がこれから普通に増えてきますので、介護離職というのは全体に大きな問題になり得るということは承知しています。是非分科会でそこを深めて検討いただければと思います。貴重な意見をありがとうございました。</p>
<p>岸田会長</p>	<p style="text-align: center;">(3) 第8期介護保険事業計画の初年度認知症対応型共同生活介護 (認知症高齢者グループホーム)の整備について</p>
<p>岸田会長</p>	<p>続きまして、議題(3)「第8期介護保険事業計画の初年度認知症対応型共同生活介護(認知症高齢者グループホーム)の整備について」、福祉政策課より説明をお願いします。</p>
<p>福祉政策課 長</p>	<p style="text-align: center;">(議題(3)説明概要から資料3に基づいて説明)</p>

岸田会長	ただいま説明がありました。事前質問では3点質問をいただいておりますが、この点につきましては所管課からは、補足説明はございますか。
福祉政策課長	特にございません。
岸田会長	それでは、追加のご意見やご質問等がありましたら、お願いします。岩松委員。
岩松委員	<p>全体の印象から聞きたいのですけれども、介護要支援者、その他介護サービスを受けている人たちのアンケートから見ますと、不満はなさそうなので制度的には活用度も高まっていると思います。</p> <p>もう一つは介護をしていかなければいけない50～60代の比率が2割、3割。その人達の支援も必要ですが、地域社会に参加するという回答のところでは気になるのは、1～3の2ページ、色々な地域社会、自治会とかの参加の中で、行政と委託事業で、地域と密接になって進めていかなければならない社会福祉協議会とか、なんらかの団体に所属しているというのが2%しかない。そういう意味でどうしていかか、行政で一番、委託事業の悩みになっているようです。コミュニティーワーカーを輩出する問題も進んでいます。そういう意味でもっと地域の人達との接触、参加意識を高めるようなことに垣根みたいなものがあるのかと感じます。その辺のことも地域活動を進めるうえで、参加意識も50～60代の人々の参加意識が低いんですよ。でも一番その人たちがサポートしている人達です。そういう意味では地域活動の参加も関心を持っていただく。そういう方々の接触は、やはり一番身近な団体として社会福祉協議会もある訳です。各地区に配置している訳ですから。この辺のことを少し今後の方向として注視していただければありがたいと感じます。</p>
岸田会長	ありがとうございます。この件について何かありますか。
地域支えあい課長	貴重なご意見ありがとうございます。数値の低かった原因について、こちらでも考えております。例えば地域でやっていただくイベント、お祭りや盆踊りであったり子どもたちの釣り大会であったり、色々創意工夫の行事を行っていただいて、それぞれにご参加をいただいている方々がたくさんいらっしゃるはずなのですが、ここに参加をしたという意識があればもっと数字が上がっているのではないかとと思うのですが、なかなか当事者側になって動いていないと活動に参加し

<p>地域支えあい課長</p>	<p>たという意識を持たれていないことが多いのではないかと考えています。もっと参加すること自体が地域の活性につながるのだと、何かをするのではなくて、そこに行くことが大切なのだというような意識の改革も必要なのではないかというような話し合いをしているところです。それぞれの地区社会福祉協議会の皆様にはそれぞれ地域に見合ったいろいろな活動をして頂いていますので、そこで住民の方々に応えるような周知啓発の方法なども考えていきたいと考えております。ありがとうございました。</p>
<p>岸田会長</p>	<p>ありがとうございます。計画の中でも是非その点、検討をいただきたいと思います。</p> <p>他にはどうでしょうか。</p> <p>それでは私から一点。待機者数がほぼ横ばいという形で、居宅かつ要介護3以上ということなのですが、グループホームも作っていることによって多少解消の傾向が進むのかどうか、その辺りも見通しがこれから立てられると思いますが、ありましたら補足をお願いします。</p>
<p>福祉政策課長</p>	<p>今ご指摘いただきました通り、ダイレクトに数字が反映されていくかどうかというのは非常に難しいところかと思えます。しかし、グループホームである程度自立した生活を送っていただくことで、介護度が上がってしまうことを防ぐことにもつながるであろうというところと、共同生活をしていただくことが、待機者にならないためにも一役買うのではないかと、少し期待も込めているところが正直ありますので、また現場からもいろいろと声を聞いていければと考えています。</p>
<p>岸田会長</p>	<p>他にございませつか。立川委員。</p>
<p>立川委員</p>	<p>アンケートをして頂くと色々な結果が分かって大変だと思うのですが、私たち民生委員として地域を回っていると、アンケートを書くのが非常に大変だったという意見が結構聞かれます。これは誰が書かなければいけないのか、高齢者が書くのは酷だという意見もいただきましたので、もう少し答えやすいアンケートに是非変えていただければと思いますのでよろしくをお願いします。</p>
<p>岸田会長</p>	<p>ありがとうございます。調査はどうしても聞きたい方は、色々盛り込みたいという思いがありましてどうしても長くなってしまって、回答にご負担をかけているかと思いますが、その分良い政策を立てていただくことでお返しするという感じになっていくと良いと思います。</p>

	<p>よろしく申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">(4) その他</p>
岸田会長	<p>他にございませんか。それでは議題(4)「その他」について、事務局より何かございますか。</p>
事務局	<p>ございません。</p>
岸田会長	<p>それでは令和2年度第1回市川市社会福祉審議会を終了いたします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">(事務局より、次回開催の予定等について説明)</p>

(11時30分閉会)

市川市社会福祉審議会
会長 岸田 宏司